

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270500752		
法人名	社会福祉法人 穩寿会		
事業所名	グループホームかえで		
所在地	千葉県緑区高田町1084-2		
自己評価作成日	平成28年7月31日	評価結果市町村受理日	平成28年10月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生1107-7
訪問調査日	平成28年8月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所の理念である「個々の役割を生きがいに繋がる支援をします」を念頭に日々の支援に取り組んでいます。支援の中で大切にしている事は、第一に笑顔で接する事を心掛けています。常に入居者と同じ目線で接し入居者一人ひとりの有する能力に応じ、自立している所は見守り、つまづいている所は手を差し伸べ、出来る限り自身が生活の中の主役で、職員は黒子役であるべきだと思っています。サービス内容としては地域への買い物や家庭菜園、法人内敷地に季節ごとに様々な木々や花々が咲いているので入居者同士、天候の良い日は散歩や花見を楽しまれています。外出行事(バス旅行)や事業所内での行事にも力を入れています。日々の生活の中でも役割を持ち、買い物や食事の支度、掃除洗濯等、入居者同士、助け合いながら生活を送っています。職員も外部研修や事業所内、月に一度の勉強会を開催し個々のスキルを高めサービスの質の向上を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体法人は地域で福祉の事業所を幅広く展開しており、ホームに隣接して同法人の保育園や、現在建設中の小規模多機能型居宅介護事業所がある。法人のスケールメリットを活かし、内部研修や合同行事が充実しており、入居者は職員のサポートを受けながら、自分らしい生活を日々営んでいる。ホームでは、利用者の外出の機会を増やすことに力を入れており、これまでの職員による買い物代行から一緒に買い物に行くスタイルに変更している。地域のボランティアや町会との交流も盛んであり、開かれたホームという印象を受けた。また、家族との関係が切れないよう、気を配っている様子も見受けられた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	両ユニットの目立つ場所に「個々の役割を生きがいにつながる支援をします」を掲げている。職員採用時に理念を伝え常に理念に基づくケアの実践につなげている。	ホームの理念である、“個々の役割を生きがいにつながる支援”の文言を、事業所内に掲示し、各利用者のプランに具体的な目標として組み込み理念を具現化している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の商店やスーパー・ディスカウントストアに買い物に行ったり地域への行事（節分・運動会・秋祭り）にも参加している。	利用者が地域に出る機会を意識的に作っており、職員による買い物代行を見直し、一緒に店に行き品物を選ぶよう努めている。地域のボランティアや職場体験の中学生も多く受け入れて、利用者は地域の一員として生活している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などを通して、事業所への理解と協力をお願いしている。又運営推進会議を活用し事業所内で認知症サポーター講座を開催し地域住民にも参加を募った。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業計画や外部評価の報告、地域の行事の情報を受たり、消防訓練の立会いを依頼し意見を下に発電機の稼働訓練を取り入れた。	地域包括支援センター、町会代表、民生委員、家族ほか、地域の様々な立場の人を招き、ホームの情報開示、意見交換をしている。ヒヤリハットもオープンにしており再発防止の取組みを皆で話し合う姿勢には好感が持てる。事例のみ別紙にして、話し合い後に回収するなど開示方法の工夫が期待される。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市のグループホーム連絡会の世話人を担い、情報の交換を行ったり、市の担当者に相談しより良い選択が出来るよう努めている。	グループホーム連絡会には市の職員が参加しており、事業者と活発に意見交換している。当ホームでも、運営推進会議の在り方について提案を行った。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修に積極的に参加し、学んだことを他職員にも勉強会を開催して理解を共有し日々の業務に取り組んでいる。	身体拘束は原則として行わない。転倒の危険がある利用者には、居室内の家具の配置換えをし、動線上に必ずつかまるところがあるよう配慮している。職員は内外の研修で拘束、虐待について学んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者、職員は研修に参加し、学んだ事を勉強会やミーティングで話し合い虐待について学ぶ機会を持ち、虐待防止に努めている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要と思われるときは直ぐに対応できるよう関係機関との連携をとっている。又、自立支援事業の利用がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	改定の毎に契約書を取り交わし、承諾を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に意見を求めたり、運営推進会議や玄関に意見箱を設置し要望、意見を出し易い様工夫し改善に繋げている。	家族からは運営推進会議や家族の訪問時などに意見を聞くようにしており、意見箱も設置した。今後も引き続き事業所側から声をかけるなど利用者や家族が意見を言いやすい環境づくりを進めると良いと思われる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議の前にリーダー会議を行いユニット内での意見を事前に吸い上げている。又、個々に面接を行い意見を述べてもらっている。	ユニット会議、リーダー会議ほか、ホーム長の個別面談等で現場従業者の意見・提案を聞く機会を整備し、意見の反映に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や勤怠管理と評価にて給与や賞与に反映させている。スキルアップを図れる様に常勤、非常勤を問わず研修の機会を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ユニットごとの勉強会の開催や施設内外の研修を受けられるようシフトの調整を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会を通して同業者との交流を図ったり、各種研修や交流会に参加してサービスの改善や向上が出来るように取り組みをしている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	細かな声掛けや相談援助で信頼関係が築ける様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の状況を理解し相談援助を行い関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	福祉用具や介護用品、オムツ給付等必要な助言を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事とできない事をアセスメントし、職員間で情報を共有し、自立支援に向けた関係を築けるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や行事の参加、外出や外泊が自由にでき家族との時間を大切にしている。プランに家族の役割を明記し協力を求めたりもしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や友人の面会の協力をお願いしたり、友人との手紙のやり取りや通っていた美容院へ行く等、慣れ親しんだ場所や人との関係が継続できるよう支援している。	利用者個々のプランの中に、友人への手紙書きなどが盛り込まれており、定期的に知人へ手紙を出せるよう、職員が介助している。また、利用者一人ひとりが、行きつけの美容院、馴染みの場所に行けるような支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	法人敷地内を散歩に出掛ける時など入居者同士自ら手を繋いだり生活のなかでも、つまづいている所は入居者同士助け合えるような席の配置や声掛けを行っている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後の家族には近くに来られた時は気兼ねなく立ち寄ってくださいと声掛けをしたり、入院先や施設等に出向き様子を伺ったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人・家族から生活習慣・生活歴を聞き、これまでの生活が継続できるような支援づくりを心掛けています。困難な場合は家族と相談して検討している。	意向、要望、生活習慣、趣味等は、個々のケアプランに具体的に反映し、実現していることが確認できた。ホーム全体で個別の希望を支援する姿勢があり、優れた点として評価できる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との話の中から情報を引き出したり聞き取りが難しい場合は家族から情報を得て把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活の場面の中で有する能力を引き出せるよう支援し朝・昼・夕の申し送り、ケース記録や個人チェック表等で把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の希望や家族の意向を踏まえ介護計画を作成している。月1回のミーティングを利用しカンファレンスを開催して見直しを行っている。	本人や家族の意向、担当職員の意見や観察から得た情報などをもとに介護計画を作成している。3か月に1回モニタリングし、月1回のカンファレンスで見直している。家族にも介護計画を説明して家族の意向を取り入れ現状にあった介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別記録に記入し、状態に変化があった時はユニットの申し送り簿にて職員間での情報共有を行い実践や介護計画に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問歯科や訪問理美容の利用やボランティアによる余暇活動に取り組んでいる。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町民運動会や秋祭り、節分祭等の行事に参加しやすいように地域で便宜を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人の理事長が認知症の専門医でもあり、適切な治療を受けられている。医療相談にも応じてもらったり、家族への医療的な説明をお願いしたり専門医の紹介をお願いしている。	ホームと同じ敷地内に法人の母体病院があり、利用者はほとんどが母体病院をかかりつけとしている。口腔ケアや歯の治療は訪問歯科医の診療を受けており、隣接の調剤薬局では薬の相談をするなど健康管理をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	武村内科医院の看護師や同法人の特養看護師、あんしんケアセンターの看護師等に相談しアドバイスをもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した際にはソーシャルワーカーに情報の提供をお願いしたり、担当医との連絡をお願いしたり、お見舞いに出向いたりして関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアの研修を受け職員全員に看取りについての理解を深め、今後家族や本人が「ここで最期まで暮らしたい」という思いを叶えられるように取り組んでいる。	職員は看取りケアについての研修を受け、理解を深めている。家族にも説明を行い、ホームでの看取りを希望する人もいる。家族や本人の希望をかなえられるように態勢は整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署で行われる救命講習に参加し、救命技能を学んでいる。又、毎月、勉強会を開いて誤嚥時の対応法を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3回の消防訓練を定期的実施し、内1回は運営推進会議に盛り込んで意見の交換や協力体制の依頼を行っている。	消防訓練は年3回実施し、2回は消防器具点検と併せている。また、1回は消防署の指導を受けて、運営推進会議の日に実施し、町会長、ボランティアなど地域の人も参加している。備蓄は3日分を確保し、発電機も用意している。	

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個人の尊厳を尊重し、職員主体では無く利用者の立場に立った声かけや対応を心がけている。	一人ひとりのプライドやプライバシー保護を大事にし、研修や勉強会で学んでいる。管理者は職員の声かけなどについて現場で気づいたことがあれば、その場で一緒にどのような声かけがよいのか考えている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者同志の会話や職員への訴えを傾聴し、本人の思いを第一に考えた支援が出来る様に取り組んでいる。又、二者択一にして選択し易い様に工夫するなどして、自己決定出来る様に働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の状態に合わせたペースで支援している。支援の中でも入居者に焦ることなく自身のペースで行えるように声掛けをしたり待つ事の大切さを共有しご本人の希望に近づけられるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容の利用や慣れ親しんだ行きつけの美容室へ行く入居者もいる。身だしなみも本人の好みに合わせ一緒に服を選んだり買い物に行き本人が気に入った洋服を購入するなどの支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の希望を聞きながら季節や行事に合ったメニューを決めている。一人ひとりの有する能力を把握し、食事作りや、後片付けを分担している。	利用者の希望を聞きながら一緒にメニューを考え、一緒に買物に出かけている。また、菜園で取れたトマトやネギなども使って調理している。利用者は調理にも積極的に参加しており、ぬか漬けは利用者が管理している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分チェック表で必要な水分がきちんと取れているか確認している。又、いつでも水分が取れるようにリビングのテーブルの上に水分を置き自由に飲める環境を整えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、入居者全員口腔ケアを行い口腔内の状態を観察している。また定期的に訪問歯科受診を受け口腔内のチェック、ケアについての指導を受けて支援している。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄のパターンを把握し必要に応じて声掛けするなど排泄の自立に向けた支援をしている。	トイレでの排泄を原則としており、日中は全員トイレを利用するなど排泄の自立を支援している。夜間は状況により声掛けをしたり、パッドを利用し、ポータブルトイレは体調不良のときなど一時的に使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘にならないよう排泄チェック表及び水分チェック表を活用し医療機関と相談し下剤の調整もしている。排泄について勉強会を開催し排泄についての理解を深めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の入浴の希望を聞き一日おきに入浴できるように支援している。入浴をしたことを忘れてしまいがちと訴える方には、足浴や温かいタオルで顔を拭いてもらうなどの工夫をしている。	お風呂は毎日準備している。特に行事がなければ利用者の希望の時間帯に入浴できるよう支援している。夜間入浴希望があれば職員配置を変更して対応するなど、一人ひとりにそった支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調、状態に応じて就床の時間を設け体力を温存出来る様に対応している。夜間安心して眠れるよう声掛けをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の文献のファイルを作成し薬の内容・副作用等スタッフが理解出来るようにしている。また薬の変更があった時は、その経過を記録し変化が見られた時には上司へ報告し主治医へ相談してもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に合わせた役割を持ち本人の出来る事や、その時々気持ちに配慮しながら、家事等に参加できるよう支援している。嗜好品、散歩、園芸等、入所以前の生活習慣を大切にして支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	徒歩での近隣のスーパーへの食材の買い出しや法人内の散歩、季節に応じ外出や外食をしている。ご家族と共に1泊旅行が実現された。	散歩を兼ねて食材の買いだしに近くの商店に出かけたり、行きつけの美容院に行く人もいる。ぶどう狩りに行きたいという利用者の希望に応じ、ホームの行事として企画した。また、利用者全員と家族で日帰りバス旅行を実施したり、ユニットごとに月1回以上は外出している。	

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の日用品の購入や地域のスーパーの買い物に職員と行き、入居者の有する能力に応じ入居者自身で支払いをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	大切な人への連絡を取りたいとの希望があった時は電話や手紙を出すなど支援している。また旧友との交流を文通を通じて継続出来ている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある装飾、作品を掲示したり生活空間の明るさや室温の調整をしている。感染予防として電解水による噴霧器の設置、冬場は加湿器を使用している。リビング・廊下・居室には行事等の写真やポスターを掲示している。	整理整頓がされたリビングは隣に和室があり、広々とくつろぐことができる。中庭のデッキは植木や野菜のプランターを置き、茶話会などの行事で利用している。廊下の壁面には行事の写真、家族と一緒に出かけた時の写真、日本地図などを掲示し、利用者や家族との話題のきっかけに役立っている。	現在、隣接して小規模多機能ホームの建設工事中であり28年10月に開設される。これによりグループホーム利用者の生活に影響等が生じないよう、職員全体での見守りが期待される。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースには和室やソファをいつでも使用できるようにしており、玄関先、中庭にもテーブルや椅子を置き自分の居場所が居心地の良い所になるよう配慮している。またの気の合う方と会話が楽しめる様に配置にも配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、自身が今まで使用されていた愛着のある家具等を持ち込み、入居者にとって居心地良く過ごせるように配慮している。また、何かを飾る時には相談しながら対応している。	居室には洗面台が設置されている。テレビ、仏壇、ソファや机など思い思いの家具などを持って来ており、それぞれ居心地がよさそうな部屋である。清掃も行き届き整理整頓がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	棟内全てバリアフリーとなっており手摺りや引き戸等、安全に配慮している。各居室に表札や人形等の目印となる物を飾ったり、トイレの表示も分かりやすく工夫している。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所